

公務員試験の概要

試験の概要

公務員試験は大きく分けて、業務遂行に必要な知識・適性を見る一次試験と、人間性を見る二次試験で構成されます。

- 一次試験は、SPI3などの試験を採用する自治体も増えているが、下記の試験を課しているところが多い。

教養試験(一般知能、一般知識など)

専門試験(大卒事務系試験や技術系職種、保育士などの資格職で課される場合が多い)

適性試験・適性検査

論文・作文試験など

- 二次試験

面接(集団面接、個人面接など)

各自治体の試験の特色

職種や自治体によって、試験の内容には違いがあります。

受験する自治体のHPで受験案内を確認しましょう。

・国家公務員、東京都、特別区 独自の問題を使用。過去問が公表されているので、どんな問題が出されているかチェックしましょう。

・その他の自治体 上記を除いたほとんどの自治体は過去問を公開していませんが、大まかに分けていくつかのパターンがあり、傾向が大きく変わることは少ないようです。

また、「公益財団法人 日本人事試験研究センター」が、全地方公共団体のうち 80.1%に問題提供実績があると公表しています。そのほか、SPI3などの民間の試験を活用している自治体もあるようです。

日本人事試験研究センターの提供する試験の特徴

上記センターのHPによると、市役所などの自治体へ提供される試験問題は、以下の基本試験に適性試験などを組み合わせたものが多いようです。それぞれの特徴を押さえておきましょう。

・基本試験の特徴

Standard(標準タイプ) I:大卒向け、II:高卒向け

(知能分野 20題/知識分野 20題、五肢択一式、解答時間 120分)

Logical(知能重視タイプ) I:大卒向け、II:高卒向け

(知能分野 27題/知識分野 13題、五肢択一式、解答時間 120分)

知識分野での「自然に関する一般知識」の出題はありません。知能分野(文章理解、判断・数的推理、資料解釈)が重視されます。

BEST(職務基礎力試験)

(BEST-A:60題、四肢択一式、解答時間 60分)

2024年4月よりLightが廃止され、BEST-A(職務能力試験)とBEST-P(職務適応性検査)の2つが新設されました。

Lightの出題形式をベースとした問題で、受験に備えての特別な準備・勉強の必要がなく、短時間で実施できるものです。

論理的な思考力、言語的な能力、資料分析力、国内外の社会情勢への理解等を確認する試験です。